

一般入試前期B日程

英語

I

■出題のねらい

留学に関する学生どうしの会話の内容の理解を問う問題です。語法の知識を問う問題と、文脈から推測して空所を埋める問題、内容読解問題という構成となっています。留学の行き先候補地が複数出てきますので、どちらの人物がどの国を希望しているのか整理しながら読んでいく必要があります。また会話をしている2人の学生の他に、会話の中でまた別の学生が登場しますので、3人の人物の情報を混乱せずに読む慎重さも必要でしょう。

■採点講評

内容の理解を問う [4] [5] の正答率が低かったです。会話をしている2人の人物の他、2人の共通の友人の名前が会話に登場するので、誰の情報なのかを整理しながら読まなければならず、また2人が留学先をどこにするのかについて話している内容の整理も必要でした。選択肢の内容が文章のどのあたりに書かれているのかなど、必要な情報を探し出す訓練をしておくとい良いでしょう。

II

■出題のねらい

「ロボットオーケストラ」のパフォーマンスライブのお知らせとその企画者のインタビュー記事です。同意語や熟語の知識を問う問題では、語彙の知識だけではなく文脈からの推測力も必要となります。内容読解の問題は、質問の答えが書かれていると思われる箇所を特定し、選択肢と照らし合わせながら丁寧に読んでください。詳細を正確に読めるかどうかの力を問うています。

■採点講評

内容全体の理解を問う [10] の正答率が低かったです。Norbertさんという人がどういう人物か、ロボットオーケストラを作るに至った経緯などをきちんと押さえながら読まないといけません。先に質問を読み、何が問われているのか頭に入れながら読めば時間の短縮にもなるでしょう。

III

■出題のねらい

通話時間の時代に伴う変遷について書かれています。具体的な数字を挙げながら、通話時間の減少の理由や、社会においてどのような技術的な変化があったのかが述べられています。問題では、文脈から判断して適切な語句を選べるか、指定された語句の適切な英語の定義が選べるか、文章全体が的確に読めているかを問うています。

■採点講評

13の“new corporate recruits”の英語での定義を問う問題の正答率が低かったです。直前にtraining programs（研修）という表現があるので企業の「新入社員」がイメージできるはずです。newly employed workersが正解です。さらに正答率が低かったのが、内容読解問題の14 15でしたが、答えを決める際に書かれている箇所を読み返せばよいように、どこにどのような情報が配置されているのかを考えながら読む訓練をするといいでしょう。

IV

■出題のねらい

ドローンの規制が厳しくなる中、ドローン操縦技術を学ばせる教室を開く企業が増えてきました。これらの企業が開く教室の内容についての話題です。2つの企業が開催している教室について述べられていますが、教室ごとに関連した色々な具体的事実を頭で整理しながら読んでいくことが重要です。比較的易しい英文なのでそれほど理解するのは難しくはありませんが、細部の情報の把握と同時に長文では、全体の流れ（政府の規制について→横浜のドローン・スクールについて→千葉のドローン・スクールについて）を把握することも重要です。

■採点講評

空所補充問題の16の正答率が特に低かったです。この文章はドローンが主題であり、この問題の箇所は、ドローンを言い換えている表現を構成する語が入ると考えれば、unmanned（無人の）が選べたと思います。次に正答率が低かったのが23でしたが、ドローンスクールが横浜のものと千葉のものと2か所出てきます。ここでは千葉のドローンスクールの授業風景を問うていますので、第7～8パラグラフを熟読します。飛行用練習場、服装、操縦かん、シミュレーターなどのキーワードを頼りに情報の照らし合わせをするとよいでしょう。

V

■出題のねらい

外国人観光客の増加の理由を論じるエッセイです。1) は **have much to do with** というイディオム, 2) は関係代名詞, および使役動詞 **make** の文型, 3) は進行形受動態 **be being V(動詞)-ed** の文法を問うています。

■採点講評

正答率の低かった2問について解説します。27 の問題は “**have much to do with...**” (〜と大いに関係がある) という熟語の知識を問う問題で, 不要な語は “**for**” です。また 29 は, “**the trend is being fueled**” となり, 不要な語は “**has**” でした。受動態の進行形となります。